

小杉地区 (三期)

(富山県射水市)

- 計画期間 平成28年度～令和2年度
- 面積 194ha
- 交付対象事業費 865.0百万円
- 市人口 91,458人

ポイント 駅周辺における地域資源を活用することにより交流を促進し、まちの活性化を図るもの。

地区概要 旧北陸道沿線の地域資源を活かして交流拠点を形成し、市民や来街者が集い交流するまちとして再生させるとともに、市民の生活拠点としての利便性を高める。

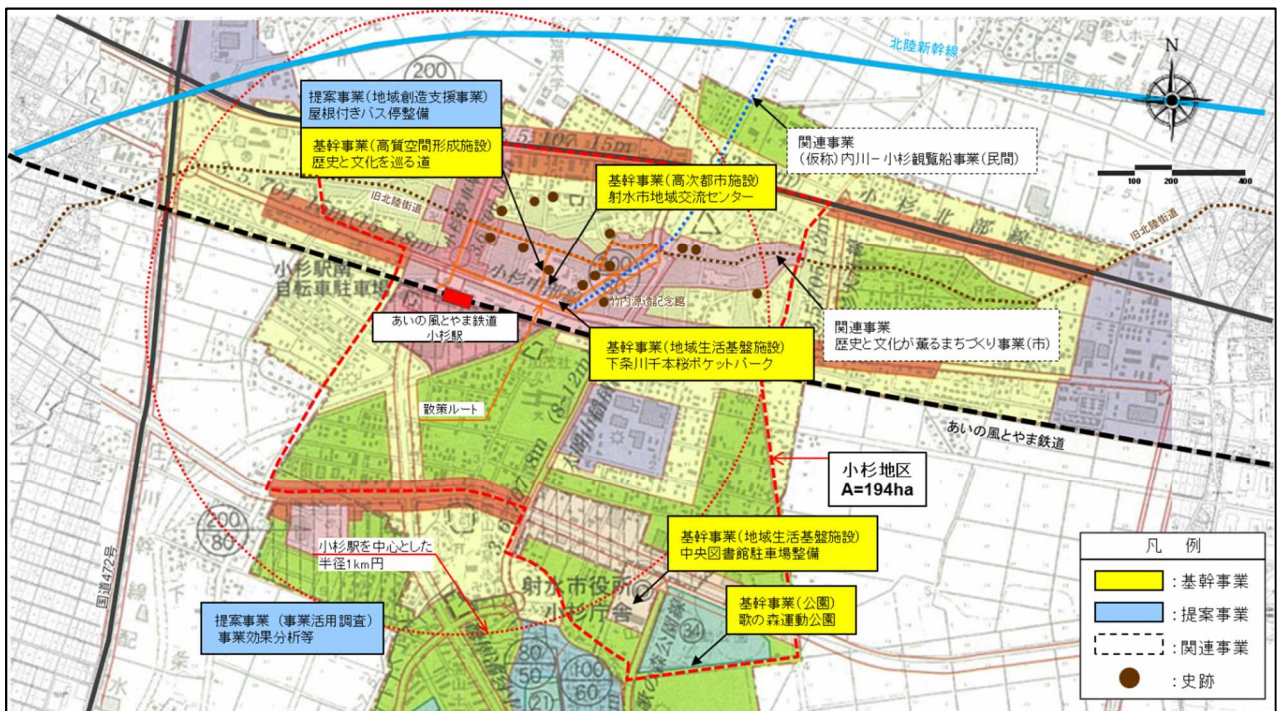
目標 交流機能強化・生活環境向上による中心市街地の再生と定住促進

指標 交流ゾーンの形成、生活拠点としての利便性向上、定住促進が図られたことを確認するため、公共公益施設の利用者数、地区内人口、歴史文化施設利用者数を指標に設定した。

公共公益施設の利用者数	61,541人/年 (H26)	→	43,846人/年 (R2)
地区内人口	8,380人 (H27)	→	8,386人 (R2)
歴史文化施設利用者数	6,638人/年 (H26)	→	3,309人/年 (R2)

事業内容

- 基幹事業 (857.0百万円) → 公園 (1箇所、0.1ha)、地域生活基盤施設 (2箇所、駐車場 5,000㎡、広場 0.2ha)、高質空間形成施設 (1箇所、164m)、高次都市施設 (1棟)
- 提案事業 (8.0百万円) → 屋根付きバス停整備 (2箇所)、事業活用調査 (事業効果分析等)



地区の現況と課題

本地区は射水市の南部に位置し、あいの風とやま鉄道小杉駅を含む旧小杉町の中心市街地をなす地区である。

地区内には旧北陸道が通っており、周辺には神社や寺院といった歴史・文化資源が多数存在しているが、知名度は低く、それらの有効活用と交流人口の拡大が課題となっている。また、本地区と「日本のベニス」と称される新湊内川を結ぶ観光船の新規事業を含めて、これらの相乗効果を高めることが必要とされている。

地区内の社会資本の大半は昭和40年代から50年代に建設されたため、施設の使い勝手の悪さが課題であり、公共施設の集約による使い勝手の向上と維持管理費の低減が必要な状況である。

地区内の人口は平成24年度8,288人から平成27年度8,380人と維持傾向にあるが、老年人口の割合は平成24年度23.7%から平成27年度26.7%と増加しており、高齢化した住民の生活環境の改善が必要である。

以上のことより、地域資源の活用と生活環境の向上の両面に対してバランスよく事業を実施し都市の再生を目指すとともに、交流人口の拡大によって持続可能でコンパクトな都市形成を図る。



▲下条川千本桜ポケットパーク整備



▲鰻絵と下条川千本桜まつり

計画策定プロセス

都市再生整備計画事後評価検討会の審議

2期計画(H21～26)の事後評価検討委員会は、学識経験者や地元の代表者で構成され、平成26年12月より評価委員会を2回開催し、事後評価原案を公表しパブリックコメントを行い、計画の成果や今後必要とされる新たなまちづくりの課題の整理を行った。

3期計画においては、2期計画に引き続き周辺道路整備やイベントの開催などを進め、来街者を街なかに誘導するしかけづくりや、旧北陸道周辺の交流ゾーン形成していく。また、定住人口の確保については、誰もが安心して住みやすい街なかを形成するために、これまで整備した個所と連携する既存道路、公園等の整備を図りたい。



▲下条川河川公園トイレと鰻絵



▲いみず市民交流プラザ



▲歴史と文化を巡る道の歩道整備と屋根付きバス停整備

